

## 一物の見方、考え方— 経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

### 1. まえがき

ものすごい速さで世の中が変化している。世の中は効率一辺倒に変化し、IT 機器を満足に使用できない人々は落後者となり「心」が失しなわれた挫折感にさいなまれることになる。

給料の自動振り込みは、結果として働く一家の家長の威厳を弱め、子供は両親の顔色をみて、どちらにいた方が得かを考え母親から小遣いをもらい親父から離れ無視をする。家長の権威は全くない時代である。

核家族となり、お父さんが一生懸命、努力し働いた結果として、給料がもらえ神棚、仏前にそなえられたことは時代遅れの考え方になった。

勤労報酬に対する感謝の心は、子供達に余りみられなくなった。

家族制度の廃止の結果、家族統率のために戸主に認められた権力はなくなってしまった。

尊属殺人、いわゆる自己または配偶者の連係尊属を殺害する罪、法定刑が死刑、無期懲役に限定されていることについて、最高裁判所は憲法違反とし、1995年の刑法改正で削除されなくなってしまった。

誰れも尊敬にあたいする人々がなくなった。今や三歩さがって師の影を踏まずという言葉すら時代遅れになってしまったのである。

結果として、日本人の持つ美德、ほめるべき立派な徳はあらゆる人間社会の行動から見られなくなった。

そこで、古くから実践されてきた日本人の「心」、「美德」、「商人道」を今一度、学び考え変化に対応することだと考える。

価値感のバラバラの人材の活用を金科玉条の如く、コミュニケーション (Communication)、いわゆる社会生活を営む人間の間に行われる知覚、感情、思考の

著者：広島大学生物生産学部非常勤講師

元近畿大学産業理工学部客員教授

日本禅画家協会名誉理事

中国少林書画院名誉教授

法号位 法印 禅画位 奥伝

青木伸雄

釋 禪 禪 (野風生)

雅号 樹泉

伝達、言語、文字その他視覚、聴覚に訴える各種のものを媒介とする物の見方、考え方では、決してうまくゆかない時代に突入したのである。

「絶学無為」の教え、「風を読む経営」、「個人情報保護法と SNS」を学び、変化をする社会、人間性を考える必要があると思考する。

如何にして忠誠心のある社員を養成するかであり、IT 機器等の利便性に対応できない個人情報保護法の基本を学び、誤用をさける英智を知ることだと思う。

日進月歩から秒進分歩の IT 機器等の進歩に法整備が追いつかない現実に対応することである。

結果として、アナログからデジタルへの変化は、あらゆる分野で人間の「心」まで変えてしまった現実を考究することにする。

### 2. 絶学無為の教を学び実践する

仏教の教えの證道歌のなかに「絶学無為」という教えがある。その大意は、悟り、悟りの道、真理を体得する教えである。

一般に教道（仏が衆生に垂れる教説）の対とされ、諸仏をさとった真理の理が述べられている。

いささか専門的になるが四教儀註（釈尊の一生の教えを四つに分類）では智顛が、藏、通、別、円の化法の教えと、頓、漸、秘密、不定の化儀の四密の説を解いているのが、「絶学無為」という教えを学ぶと、その教えの基本は、

辞書的には「絶学」とは、途中で廃絶し、後世に伝

